東市来中NIE教育実践報告

鹿児島県NIE実践校
日置市立東市来中学校
教 諭　鶴田　忍

----- 会議メモ (16/03/03 17:19) -----
これから，東市来中NIE教育実践報告を行います。
今年度，本校のNIEを担当しました鶴田です。
今回の報告では，担当者として大きく関わった今年度の取り組みを中心に発表させていただきます。

研究テーマ
積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実

校　訓
「学・道・錬」

学校教育目標
「自ら学び考え，判断し，行動できる，心豊かでたくましい生徒の育成」

生徒の実態
・　情報機器の普及による人間関係の希薄さ
・　不用意な発言等によって生じる相互不和の悩み

----- 会議メモ (16/03/03 17:19) -----
本校では，研究テーマを昨年度より「積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実」として取り組みました。

この研究テーマは，本校の校訓である「学・道・錬」並びに，学校教育目標である「自ら学び考え，判断し，行動できる，心豊かでたくましい生徒の育成」を達成するために，NIE教育が一つの手段として効果的ではないだろうかと考えたことによります。

生徒の実態ですが，近年，急速に普及した情報機器は，本校の生徒にも徐々に浸透しています。SNSの利用者も多くなってきているのが現状です。
その中で，SNS上ではつながってはいるものの，相手の本音が分からず，人間関係の希薄さを感じている生徒が増えているようです。また，不用意な発言によって生じるトラブルも発生し，心から語り合ったり，考えて発言したりする行為が日常生活の中で以前よりも少なくなっているように感じます。

仮説1

国語科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を基に，週末課題を作成・提示したり，教科書教材と併用して教材化を工夫したりすることで，社会や物事に対する興味・関心を喚起し，語彙を広げたり，論理性を育成したりするなど，生徒の読解力や表現力を育み，積極的な表現態度を引き出す言語活動を展開することができるのではないか。

仮説2

作文コンクールや弁論大会，新聞記事，コラムなどの秀文を提供することで，新聞に対する興味・関心を喚起し，感想や考察などをもつことで，生徒の豊かなものの見方や考え方を引き出すとともに，モデルとなる表現を活かしながら自己の表現を工夫するなど，積極的な表現態度を引き出す言語活動につながるのではないか。

仮説3

社会科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を導入段階で提示・活用することで，新聞に対する興味・関心を喚起するとともに，学習課題の追究を触発し，解決の手掛かりの獲得につながるなど，課題追究を活性化することができるのではないか。

研究テーマを元に3つの仮説を設定しました。

仮説1では，国語科の取り組みの中で新聞を活用することで，生徒の読解力や表現力を育むことができるのではないかと考えました。

仮説2では，新聞記事を読むことで，ものの見方を豊かにするだけではなく，表現の工夫につながるのではないかと考えました。

仮説3では，社会科の取り組みの中で新聞を活用することで，社会的事象への興味・関心を引き出し，課題解決力の育成につながるのではないかと考えました。

研究内容

⑴ 週末課題の作成
⑵ 語彙を広げる言語事項の学習設定
⑶ 論理性を育む要約や見出し，感想文などの作成
⑷ 記事を活用した短文づくり
⑸ 社会科授業における新聞記事の活用
⑹ 提供新聞の図書室への設置
⑺ 生徒による新聞づくり

今年度は，研究内容⑵～⑷を総合して，新聞記事を題材にしたショートスピーチ発表を全校一斉で取り組んだ。

研究仮説を元に，平成２４年度から今年度までに

こちらの７項目に取り組みました。

研究内容⑴の週末課題の作成では，コラムや記事の視写に取り組みました。今年度は，週末課題を教科の課題帳に変更したため取り組んでいません。

今年度は，研究内容⑵～⑷を合わせた形で，新聞記事を題材にしたショートスピーチ発表を全校一斉で取り組みました。

H27年度の実践報告

新聞活用実践の経緯

H26年度までの取り組みから生じていた課題

・題材の偏り（部活動や将来の夢など）

・社会の出来事を取り上げても，事実の説明がうまくいかず，何を伝えたいかがわからない。

・題材を決められず，進み具合に個人差が生じ，苦手な生徒にとっては苦痛な時間になってしまった

ショートスピーチの題材として，新聞を活用する

題材の幅を広げ，意見は書けなくても記事の紹介や感想を書くことができるのではないか

取り組みについて説明いたします。
まず，ショートスピーチの題材として

新聞を活用しようとした経緯についてご説明いたします。

本校では，言語活動の充実を目指して，弁論大会に取り組んできました。学級発表を経て，校内弁論大会を開いていたのですが，行事の精選や時数確保などの事情から，校内発表を文化祭で行うことになりました。それに伴い，文章量を原稿用紙4枚から2枚に減らしました。
弁論大会ではありますが，発表時間が短いことからショートスピーチとしてここでは紹介いたします。

昨年度までの取り組みを通して，3つの課題がありました。

一つ目に，「題材が，部活動のことや将来の夢などに偏ってしまう」こと

二つ目は，「社会の出来事を取り上げても，事実の説明がうまくいかず，何を伝えたいかがわからなく」なってしまうこと

三つ目は，「題材を決められず，進み具合に個人差が生じ，苦手な生徒にとっては苦痛な時間になってしまった」こと
です。

これらのことから，

新聞記事から題材を探すことで，

題材の幅を広げ，意見は書けなくても記事の紹介や感想を書くことができるのではないかと考えました。

テーマ

「社会の出来事に目を向けて，考えたことを発表しよう」
～新聞を読んで気になる記事について，意見を述べてみよう～

活動の流れ

1　新聞を読んで題材にする記事を決める。

最近の出来事や過去の印象的だった出来事について書かれた記事の中から，題材を決める。

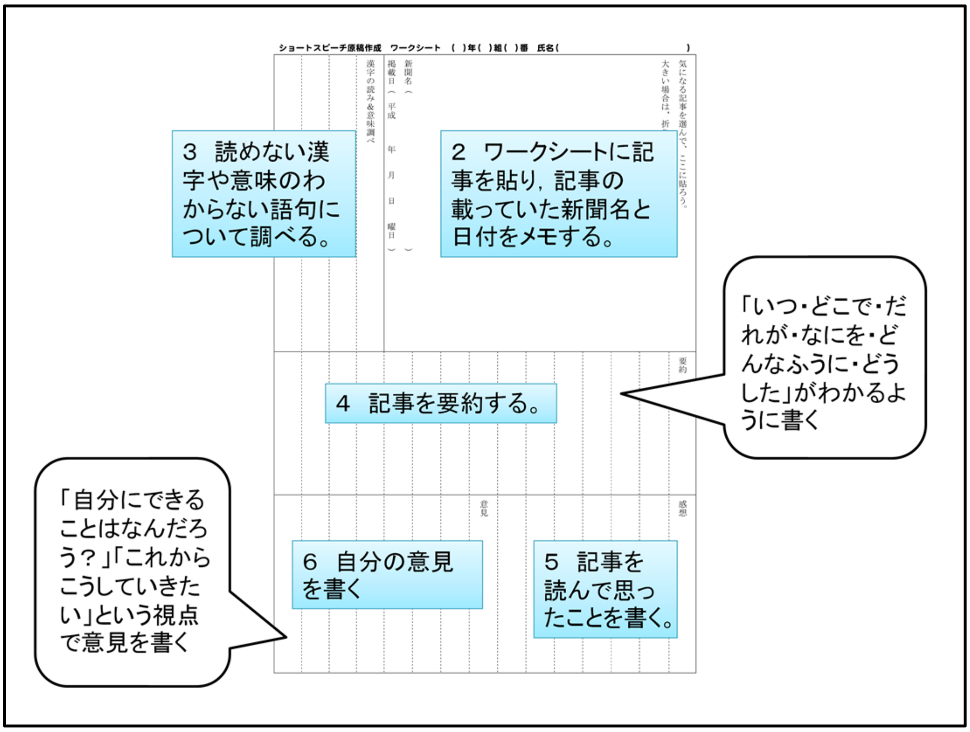
ショートスピーチのテーマを

「社会の出来事に目を向けて，考えたことを発表しよう」とし，副題をつけました。これまでにない取り組みなので，活動内容をテーマと副題で示しました。 この取り組みは，10月下旬に予定されていた文化祭での発表に合わせて，9月中旬頃から始めました。導入部分は国語の授業で行い，その後，原稿用紙に文章を書いたり発表練習をしたりする活動は，教育相談の時間に副担の先生方が行いました。

まず，新聞を読んで題材とする記事を選ばせました。図書室に，4月から9月までの新聞をストックしてもらい，その中から各自で記事を選びました。

感想や意見を述べられる記事を選ぶようアドバイスし，どの記事にするかは生徒に任せました。

ただし，状況が変化することが懸念される記事を選んだ場合は，原稿作成中に出来事の変化がある可能性を伝え，判断は生徒自身に任せました。



こちらは，生徒に配布したA3サイズのワークシートです。

まず，選んだ記事を切り抜き貼らせました。その際，新聞名・記事の掲載日を書かせました。

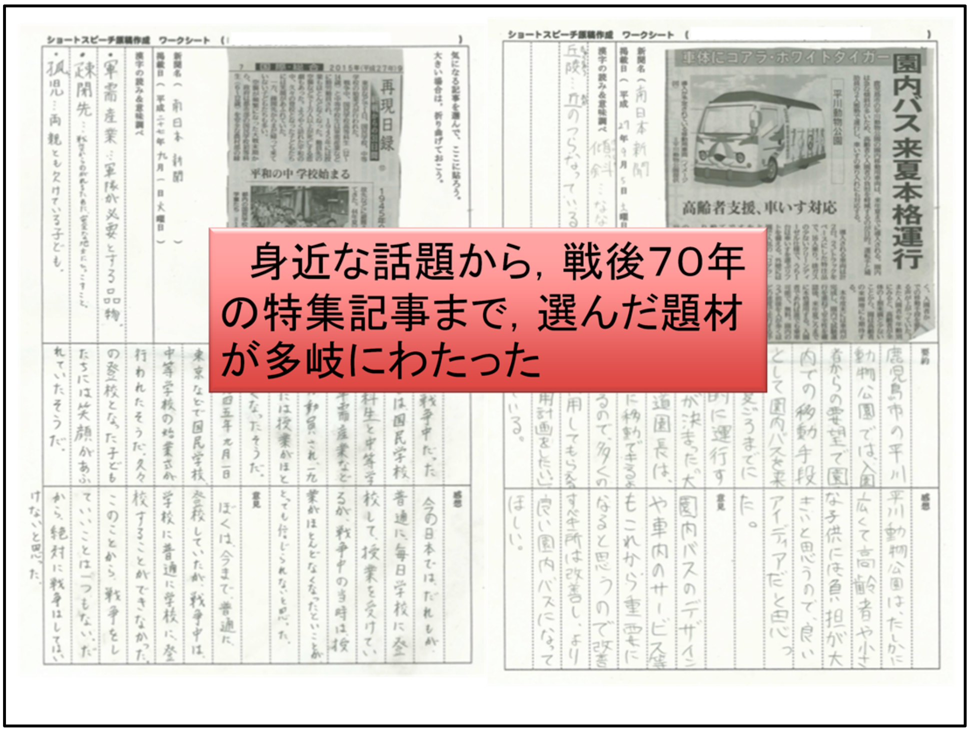
次に，記事を読んで，語句の読みや意味を調べさせました。図書室で活動したので，辞典類を活用し調べさせました。地名や辞書に載っていない言葉については，インターネットを使って調べさせました。

次に，記事の要約をさせました。「いつ・どこで・誰が・何を・どんなふうに・どうした」がわかるように書くようアドバイスしました。

そして，記事への感想と

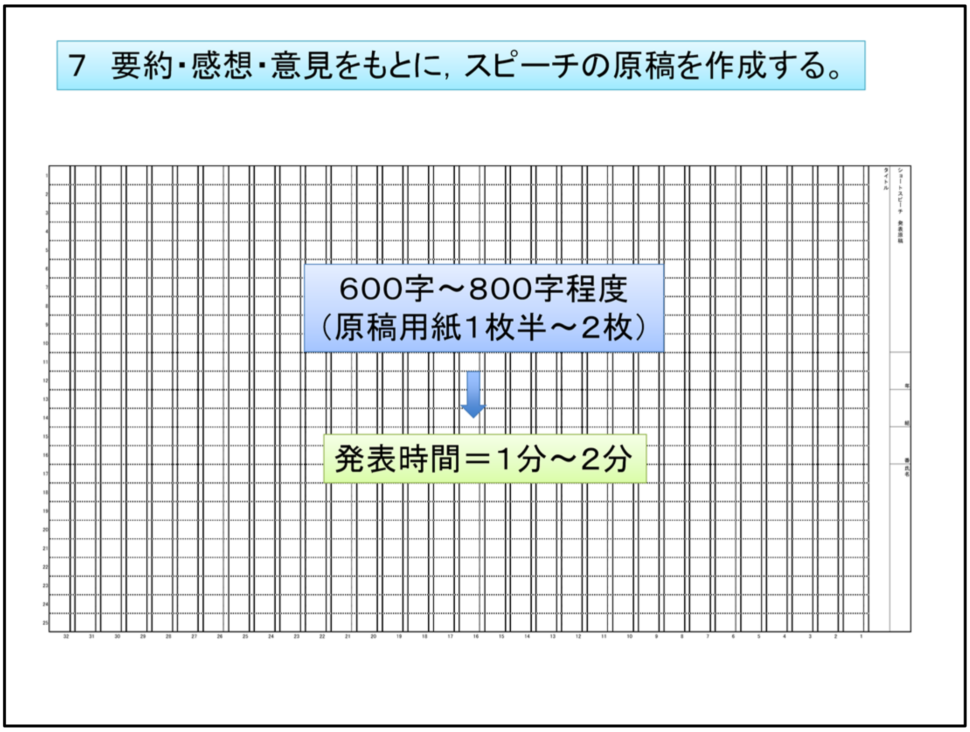
意見を書かせました。感想と意見を明確に分けることができない生徒には，感想の欄から続けて思い浮かんだことを箇条書きで書かせました。

また，書き終わりに何を書いといいかわからない生徒には，その記事を読んで，自分にできることやしたいことを書くよう助言しました。



こちらは，生徒が書いたワークシートです。

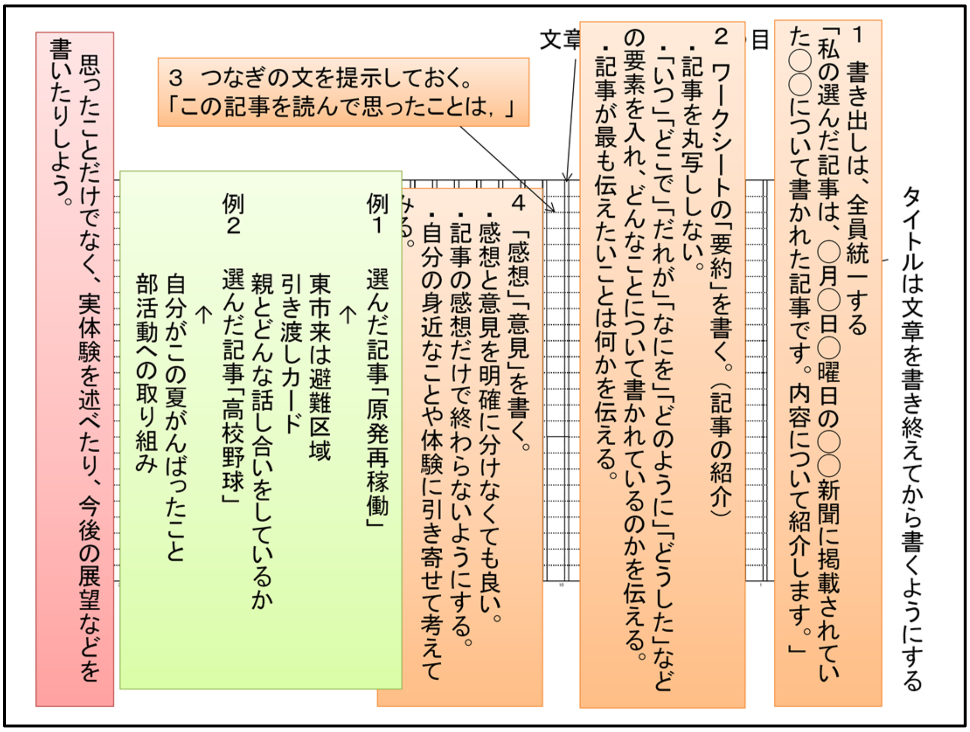
身近な話題から戦後70年に関する記事まで，題材が多岐にわたり偏りや重複はあまり見られませんでした。



先ほどのワークシートを元に，

800字以内の原稿を作成させました。
原稿用紙は，国語科で作成し配布しました。

また，発表時間の大まかな目安も伝えました。



原稿用紙だけを配るのではなく，書き方のヒントも同時に配布しました。

まず，「要約・感想・意見」をどのくらい書いたらいいか，の目安になる線を引きました。

タイトルは文章を書き終えてから書くように指示しました。

書き出しについては，全員統一し，空欄を埋めれば書けるようにしました。

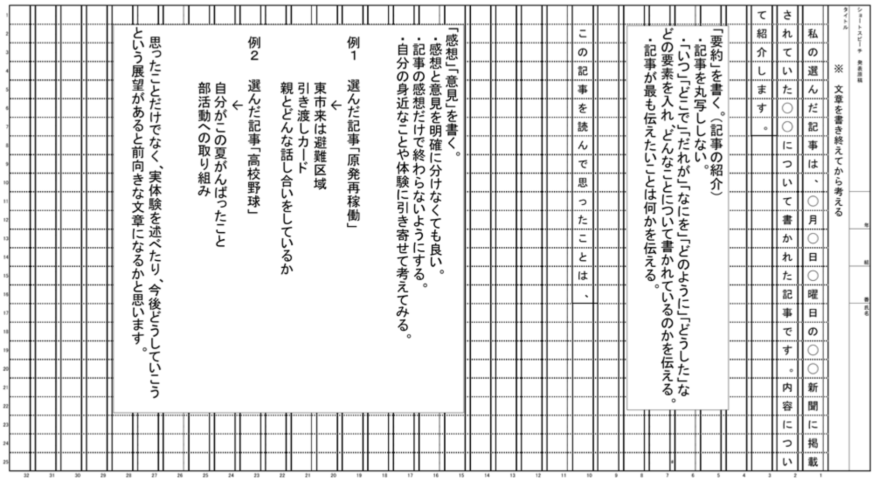
次に記事の紹介として，ワークシートに書いた要約文を書かせました。

要約文から感想・意見につながる部分は，「この記事を読んで思ったことは」に統一し，そのまま書かせました。

感想や意見は，ワークシートに書いた文章を写すか，変更しながら書くようにしました。

聞き手に意見をわかってもらえるよう，実体験や展望を書き加えることをアドバイスしました。

実際の例文用紙



ショートスピーチ　発表原稿

タイトル

※　文章を書き終えてから考える

年　組　番　氏名

私の選んだ記事は、○月○日○曜日の○○新聞に掲載されていた○○について書かれた記事です。内容についで紹介します。

「要約」を書く。（記事の紹介）
・記事を丸写ししない。
・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どのように」「どうした」などの要素を入れ、どんなことについて書かれているのかを伝える。
・記事が最も伝えたいことは何かを伝える。

この記事を読んで思ったことは、

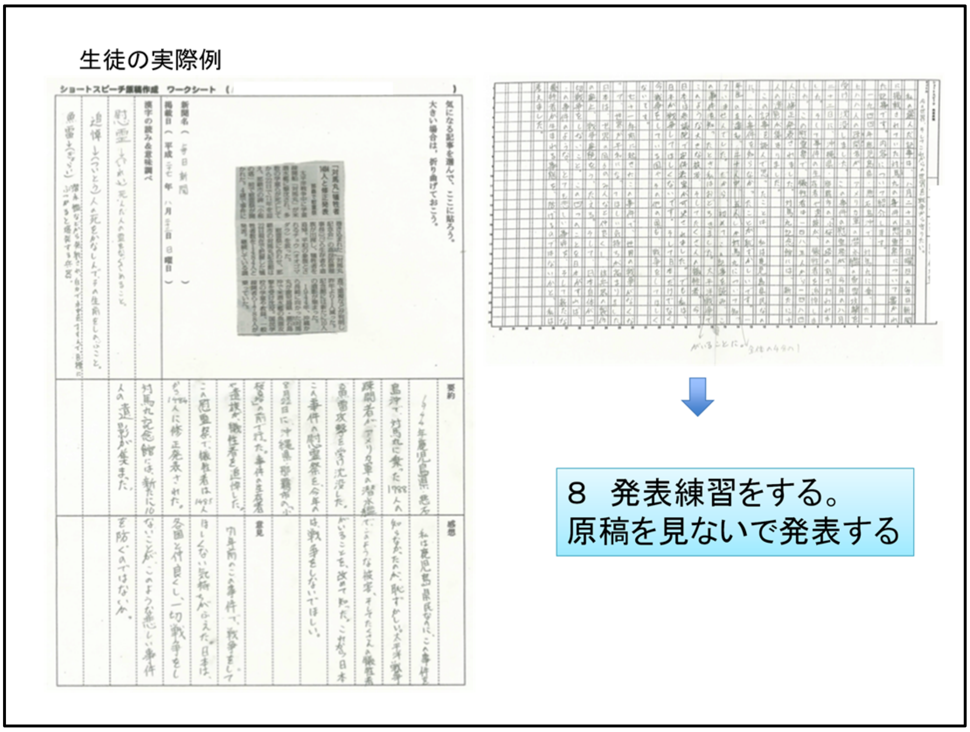
「感想」「意見」を書く。
・感想と意見を明確に分けなくても良い。
・記事の感想だけで終わらないようにする。
・自分の身近なことや体験に引き寄せて考えてみる。

例１　選んだ記事「原発再稼働」
←
東市来は避難区域
引き渡しカード
親とどんな話し合いをしているか

例２　選んだ記事「高校野球」
←
自分がこの夏がんばったこと
部活動への取り組み

思ったことだけでなく、実体験を述べたり、今後どうしていこうという展望があると前向きな文章になるかと思います。

こちらが，生徒に配布した例文用紙です。
この用紙とワークシートを見ながら，各自で原稿用紙を書いていきました。



こちらは，実際に生徒が書き上げたワークシートと原稿用紙です。

多くの生徒が，原稿の推敲を行い書き直しながら仕上げていました。ほとんどの生徒が昨年度よりも1時間分ほど早く原稿を完成させていました。

原稿作成から発表までに，毎年，4時間組んでもらっていました。昨年度までは，題材決定が遅いため原稿の完成も遅くなり，発表練習ができない生徒も多くいました。

今年度は，題材決定が早かったため，原稿完成も早く，ほとんどの生徒が発表日前日にはじっくり発表練習に取り組めていました。

こちらは，３年生の学級発表会の様子です。全校一斉に同じ時間に取り組みました。

教師だけでなく生徒も審査を行い，学級の代表者を選んでもらいました。

１０　学級代表者によるスピーチ（文化祭）

学年	演題	記事
１年生	人に関わる仕事	「かお」 かごしま「よかとこ」暮らし支援センター　移住・交流相談員の方へのインタビュー記事
	桜島の警戒レベルについて	桜島の噴火警戒レベル　4に引き上げ
	徳之島とペットの権利	ペットの野生化が引き起こす問題について（徳之島）
２年生	目指せ！松本薫選手！	スポーツ欄
	再稼動という重さ	川内原発再稼働
	あの日から７０年	広島　被爆後７０年
３年生	学校の授業でスマートフォン活用	教育の場での活用について
	もとの生活に	口永良部島の噴火による全島避難

こちらは，文化祭当日の発表の様子です。

代表者がどのような記事からスピーチを行っているかを簡単な表にしてみました。
昨年度も「デング熱」や「STAP細胞」など，社会の出来事に目を向けた発表はありました。けれども，事実の説明をするのにテレビのニュースやインターネットで調べており，情報がうまく整理されていないものが多く，感想や意見の掘り下げもあまり見られませんでした。
今年度は，新聞記事を要約することで事実の説明をしているため，情報が整理されて聞いていてわかりやすい文章になっていました。
また，題材決定や事実の説明の文章作成に割く時間が少なくて済んだため，感想や意見を考える時間を多く取れたように思います。

発表者の感想

日頃，新聞をよく読んでいるが，今年が戦後７０年ということを新聞を通して知って，題材にしてみようと思った。

家で新聞を取っていないが，今回の活動を通して新聞を読みたくなった。祖父母の家が新聞を取っているので，時間があるときに読みに行っている。

東市来は川内原発から３０㎞圏内にあり，「もしも」の時は，避難せざるをえない場所である。記事を読んで，家族で話し合ってみようと思った。

新聞記事から題材を選ぶ

・新聞に対する興味・関心を喚起できた。
・感想や考察などを書かせたことで，生徒の豊かなものの見方や考え方を引き出すことができた。
・モデルとなる表現を活かしながら自己の表現を工夫することができた。

「ノラ猫」ではなく「野ネコ」という言葉を見て，興味を持った。人間がペットを捨てることで，生態系を乱すようなことが起きているのが許せないことだと感じて，スピーチで伝えようと思った。

原発再稼働という大事なことについて，再稼働反対の声が無視されているように感じた。もっと多くの意見を交わして進めるべきことではないか。社会の出来事に興味を持つ，きっかけになった。

その後，代表者に感想を聞きましたので紹介します。

《　感想　》

このように，新聞記事からショートスピーチの題材を選ばせたことで，

新聞に対する興味・関心を喚起できすることができました。

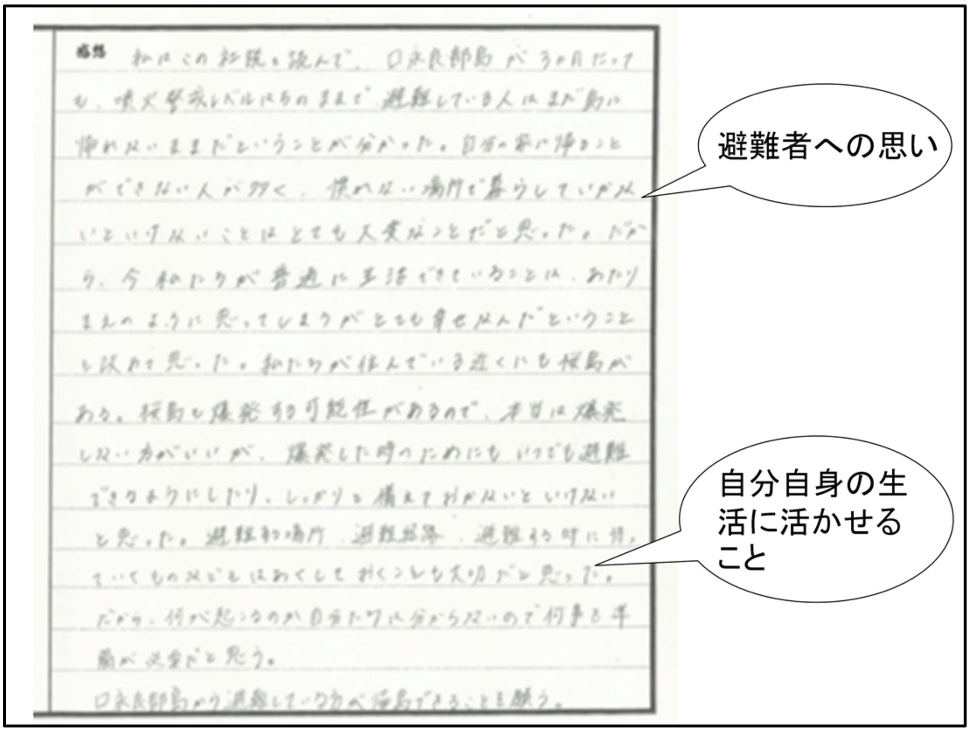
また，感想や考察などを書かせたことで，生徒の豊かなものの見方や考え方を引き出すことができました。

そして，モデルとなる表現を活かしながら自己の表現を工夫することができました。

次に，社会科の取り組みを紹介します。

社会科では，夏休みの課題として「社説」を選び，感想を書く活動に取り組みました。
ワークシートの左半分に社説を貼り，右側に感想を書かせました。

この社説は，「くちのえらぶじま」 全島避難から3ヶ月後の様子について書かれたものです。



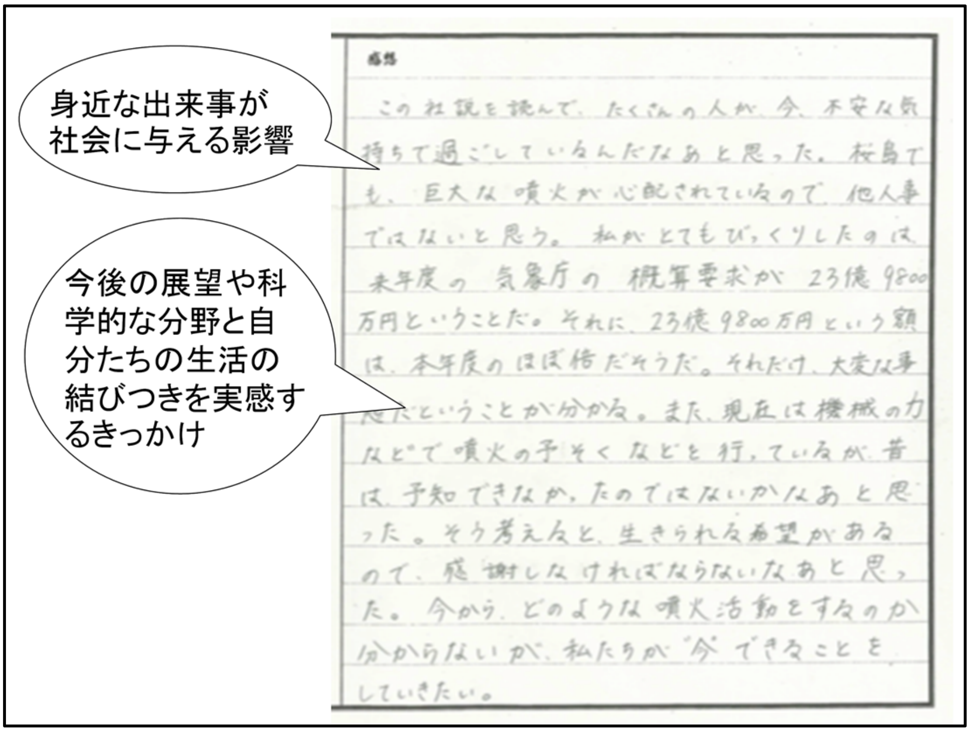
感想　私はこの記事を読んで、口永良部島が3ヵ月たっても、噴火警戒レベル5のままで避難している人はまだ島に帰れないままだということが分かった。自分の家に帰ることができない人が多く、慣れない場所で暮らしていかないといけないことはとても大変なことだと思った。だから、今私たちが普通に生活できていることは、あたりまえのように思ってしまうがとても幸せなんだということを改めて思った。私たちが住んでいる近くにも桜島がある。桜島も爆発する可能性があるので、本当は爆発しない方がいいが、爆発した時のためにもいつでも避難できるようにしたり、しっかりと備えておかないといけないと思った。避難する場所、避難経路、避難する時に持っていくものなどをはあくしておくことも大切だと思った。だから、何が起こるのか自分たちには分からないので何事も準備が必要だと思う。

口永良部島から避難している方が帰島できることを願う。

この生徒は，

避難者への思いや

自分自身の生活に活かせることを主に書いています。



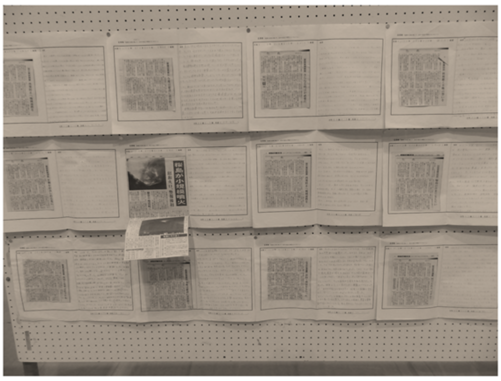
別な生徒は，

身近な出来事が社会に与える影響や

今後の展望や科学的な分野と自分たちの生活の結びつきを実感するきっかけになったことを書いています。

このように，同じ社説でも感想はそれぞれ違っています。

文化祭での掲示



同じ社説でも異なる感想を並べて掲示

↓

多様なものの見方や考え方を知る

このワークシートを，文化祭の展示物として掲示しました。

先ほどの例のように，
同じ社説でも異なる感想がたくさんありましたので，近くに並べて掲示しました。

そのことで

掲示を見た他学年の生徒にとっても，多様なものの見方や考え方を知る機会になりました。

⑹ 提供新聞の図書室への設置

図書室に設置された新聞コーナー

生徒が手に取りやすいよう、日付が見えるように配慮

教育関係の記事のファイル

こちらは，提供していただいている新聞を設置している図書室の様子です。

生徒が手に取りやすいよう，日付が見えるよう配慮されています。

また，教育関係の記事だけファイルにとじています。

⑺ 生徒による新聞づくり（平成26年度）

１年生の国語科の授業の中で，学校紹介新聞を作る活動を取り入れた。教科書教材ではリーフレットづくりとなっているが，新聞を意識した取組を実施した。一人では書くことが難しい生徒もいるため，グループで協力させた。

その結果，相互に読み合い，相手を意識した内容になっていた。また，見出しを工夫しようとする姿が見られた。

その活動を生かし，トップニュースを書く活動では，個人で新聞を書く活動に取り組んだ。

生徒による新聞づくりは，平成26年度の担当者が行いました。
今年度もリーフレットづくりをしていますが，現在進行中のため紹介できません。

研究の成果と課題

〇成果

① 新聞に対する興味・関心を喚起
② ショートスピーチの充実
③ 社会の出来事に対する興味・関心の喚起
④ 多様なものの見方や考え方に触れる機会づくり

●課題

① 特定教科だけの取り組み
② 継続した取り組みや引き継ぎの難しさ
③ 教師主導の取り組み

今年度の取り組みやこれまでの取り組みの報告書を通して，成果と課題について考えてみました。
まずは成果です。

１つ目は，新聞に対する興味・関心を喚起することができたことです。ショートスピーチの題材になる記事選びの後，新聞を読む機会が増えたという生徒の感想が聞かれました。

２つ目は，ショートスピーチの充実です。題材の偏りがなくなったことで，学級発表会でも他の生徒の発表を興味深く聞く姿が見られました。他の先生方からは，「生徒の興味関心がわかって面白かった」「日頃の生活や授業からは知ることができない，生徒自身の考えや感想を聞くことができてよかった」というような声も聞かれました。

３つ目は，社会の出来事に対する興味・関心の喚起につながったことです。ニュースで見聞きしたことを，休み時間に図書室に置いてある新聞で読んでいる姿が見られました。

４つ目は，多様なものの見方や考え方に触れる機会を作ることができたことです。コラムや社説の感想を書くために，記事を読み考える機会を作れたことは良かったと思います。

次に，課題です。

１つ目は，NIEの指定を受けたのですが，特定教科だけの取り組みになってしまったことです。職員への周知や情報提供，共通理解がうまくいきませんでした。職員研修等での研修が必要だなと感じました。

２つ目は，継続した取り組みや引き継ぎの難しさです。本校では4年間の間に担当が５人変わり，その度に週末課題ひとつとっても継続した活動ができませんでした。教科の特性を生かした活動よりも，記事の視写や意味調べなど，単調な取り組みの方が長く続き，学級単位で取り組める活動だったのではないかと感じました。

３つ目は，教師主導の取り組みになってしまったことです。生徒目線で記事を選んだり課題を考えたりするところまで考えが及びませんでした。

今年度でNIEの指定校は終了しますが，授業やその他の場面で新聞を活用することは，生徒の言語的能力だけでなく，社会性や道徳的価値観の醸成に有効であると4年間の実践を通して感じました。残念ながら，実践前後の数値的なデータがなく，担当の主観でしかないのですが，生徒は楽しんで新聞を読んでいるようなので，その楽しむ気持ちを大事にしながら今後の活動を展開していけたらいいなと考えております。

----- 会議メモ (16/03/03 17:19) -----
以上で，東市来中NIE教育実践報告を終わります。
お聞き苦しいところがあったと思いますが，最後までご静聴ありがとうございました。